

事業名	国際交流推進事業費		
細事業名	山梨県国際交流協会事業費補助金	財務コード	657103
担当部課室	観光 部	国際交流 課	国際交流 担当 (内線) 4403

事業の概要

実施期間	始期 H15 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助((公財)山梨県国際交流協会)		
事業の目的	だれ(何)を対象に 公益財団法人山梨県国際交流協会	その対象をどのような状態にして 国際交流活動等の機会と場を県民に提供している	結果、何に結びつけるのか 本県の国際化の進展
	<p>(公財)山梨県国際交流協会は、県民が主体となった国際交流、国際協力等の推進を図り、もって世界に開かれた国際県・山梨の実現に寄与することを目的として平成2年に発足した。平成25年6月3日に公益財団法人へ移行している。</p> <p>本県における民間の国際交流の中核団体であり、本県唯一の地域国際化協会である(公財)山梨県国際交流協会の活動を支援し、本県の国際化の進展を図ることを目的に、国際交流協会が実施する事業に必要な経費を補助する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助先 (公財)山梨県国際交流協会 補助率 定額 補助対象(次の事業経費のうち、知事が適当と認めたものの経費を補助) <ol style="list-style-type: none"> 協会運営事業費のうち人件費 国際観光振興事業 国連思想普及啓発事業 多文化共生事業 その他協会の目的を達成するために必要な事業 		
事業の内容 主にH26年度			
根拠法令等	公益財団法人山梨県国際交流協会事業費補助金交付要綱		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	25年度		26年度		27年度	28年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	通訳ボランティア育成セミナー回数	回数:2回	回数:2回	回数:2回	回数:2回	回数:2回	活動指標 目標設定の考え方 補助金額で効果的に事業が実施できる範囲 データの出典等 予算見積書
	国際理解講演会の開催回数	回数:1回	回数:1回	回数:1回	回数:1回	回数:1回	
	高校生弁論大会の開催回数	回数:1回	回数:1回	回数:1回	回数:1回	回数:1回	
活動指標達成率 (実績値/目標値)	100.0 %						
成果指標	通訳ボランティアセミナー参加者数	-1 56名	-1 44名	-1 39名	-1 50名	-1 50名	成果指標 目標設定の考え方 定員:通訳ボランティアセミナー(H25定員60名)、講演会(H25定員60名) 過去3カ年の実績平均:高校生弁論大会 データの出典等 実績報告書
	講演会参加者数	-2 大雪で中止	-2 44名	-2 39名	-2 50名	-2 50名	
	高校生弁論大会参加者数	52名	70名	130名	70名	70名	
成果指標達成率 (実績値/目標値)	126.6 %						
決算額又は予算額 (千円) うち一財額	690		700	700	700	700	成果指標によらない成果 観光通訳ボランティア育成セミナーを実施し、本県を訪れる外国人観光客への言語サポートの充実を図り、観光通訳ボランティアの育成に努めている。また、国際理解講演会、高校生弁論大会を開催し、多くの県民に参加していただくことで、県民の国際理解と青少年の国際感覚の醸成を図っており、本県の国際化の進展に向けて重要な役割を果たしている。
所要時間(直接分)	20 時間		20 時間	20 時間	20 時間	20 時間	
所要時間(間接分)	0 時間		0 時間	0 時間	0 時間	0 時間	
所要時間計	20 時間		20 時間	20 時間	20 時間	20 時間	
人件費コスト単位:千円 (@2,048円×所要時間)	41		41	41	41	41	

これまでの事業の見直し・改善状況

--

活動量と成果の判断(平成26年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方	数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H26年度活動指標の達成率			
b	b		

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方	必ず記載すること
H26年度成果指標の達成率			
a	b		平成26年度は、観光通訳ボランティア育成セミナーにおいては、定員44名のところ39名が参加しており、高校生弁論大会には、発表者17名を含む30名が参加している。また、国際理解講演会には、130名が参加しており、参加者から好評を得ている。 外国人観光客が、山梨の魅力を理解し満足する旅行をするためには、母国語で分かりやすく説明するガイドが必要である。富士山が世界遺産に登録されるなど、今後も県内を訪れる外国人観光客の増加が見込まれることから、言語サポートの充実を図るため、通訳ボランティアを対象としたセミナーを実施し、外国語による観光案内ができる人材育成に取り組んでおり、県内では県が育成したボランティアが活動している。また、国際交流、国際協力等に関する理解促進を目的として、講演会及び高校生による弁論大会を開催し、多くの県民に参加していただいております。国際理解の推進や地域の国際化を担う青少年の国際感覚の醸成に寄与している。これらのことから、意図した成果をほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果をほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成28年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)

見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	ホームページやフェイスブックを活用する等、今後も引き続き効果的なPRを検討し、事業への参加者増につなげ、補助金の効果がより一層高まるよう努める。	a

・「以外の判断項目」の欄
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成28年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等	「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更	ホームページやフェイスブック等を活用して、事業の周知及び積極的な参加を呼び掛けることにより、事業への参加者増につなげ、補助金の効果がより一層高まるよう努める。 また、通訳ボランティアネットと協力して、ホームページやフェイスブック等を活用して、通訳ボランティアの利用促進を図る。	

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること